



ウツディホールでの展示や森林環境教育を通じた普及活動について

北海道森林管理局 技術普及課

はじめに

木材は加工しやすく親しみやすい素材として、住宅はもちろん、家具や玩具、産業用資材など多くの用途に利用されており、私たちの暮らしに欠かせません。林野庁では、身の回りの物を木に置き換えたり、木を暮らしに取り入れたり、建築物を木造・木質化する「ウッド・チェンジ」の取組を推進しています。

展示による普及啓発・情報発信

「ウツディホール」は北海道森林管理局の吹き抜け式のエントランスホールです。ホールの構造物そのものが木材展示と言えるほど、天井にはエゾマツやハリギリ、柱にはトドマツ、床にはダケカンバやミズナ



「木育コーナー」

ラといった道産材がふんだんに使用されており、木の質感とぬくもりを存分に感じられる空間となっています。
ホール内の一番人気は児童が木のおもちゃで遊べる「木育コーナー」で、木のボールプールや家のほか、ウサギなどの動物をあしらった木のおセロや、輪切りされた木材を並べて倒す「年輪ドミノ」など、親子連れや近隣の保育園児に楽しまれています。

管内概要

- 所在地** 北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番
- 区域面積** 8,342,227ha
うち森林面積 5,535,870ha
うち国有林野面積 3,038,833ha
(森林面積に北方領土の面積は含まない。)
- 関係市町村** 北海道179市町村のうち150市町村

北海道森林管理局では、北海道に広がる森林のうち、約55% (約304万ha)に相当する国有林の管理や保全を行っています。

管内国有林は、トドマツやエゾマツといった針葉樹、ミズナラ、イタヤカエデ、カツラなどの広葉樹が混交する森林となっており、季節ごと、地域ごとに様々な表情を見せてくれます。

北海道には、多くの国立公園や国定公園がありますが、そのうち国立公園の約8割、国定公園の約6割を、国有林が占めています。こうした自然公園の美しい景観や豊かな自然環境、生きものたちが暮らす生態系を守るために、森林の管理・保全に取り組んでいます。

この他にも、世界自然遺産である知床をはじめ、原生的な自然環境が広がる地域、ブナの自生北限・トドマツの自生南限、シマフクロウやレブンアツモリソウなど希少な野生生物が生息・生育する学術的にも価値の高い森林が数多くあり、これらの森林を未来に引き継いでいけるよう、大切に守り育てています。



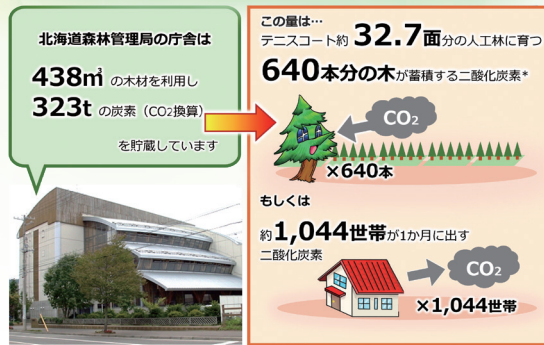
「ウツディホール」全景





占冠村の企画展示 ※現在は終了しています

北海道森林管理局庁舎に利用した木材に係る炭素貯蔵量



また、北海道の主要樹種の木材・球果や、庁舎の木材利用状況と炭素貯蔵量のパネルの展示のほか、プロ野球選手が使用した木製バットや、その材料となるアオダモを

テーマにした「野球バットコーナー」などの常設展示があります。

さらに、「ウッドディホール企画展」として、国有林や市町村等の森林・林業及び木材産業等に関する取組の紹介や、写真展、特産品の企画展示も行っており、地域の情報発信拠点の一つとなっています。このような展示を通じて、令和6年度の来庁者は延べ約3千人にのぼり、地域の皆様に親しまれています。

森林環境教育の場としての活用

「ウッドディホール」は森林環境教育等を行う場としても活用されています。

令和7年度は、5月に札幌市立宮の森小学校の施設見学を受け入れ、2年生約100名を迎えて各コーナーを紹介したほか、木の太さを測る体験(測樹体験)や大型モニターによる森林クイズにも挑戦していただきました。児童の皆さんからは「もっと木のことについて知りたくなりました。」「木は私たちの生活を支えてくれていることが分かりました。」などの感想が寄せられ、森林や木材についての理解を深めていただく良い機会となりました。

7月には、「地域の魅力や価値を体感し、再発見すること」を目的に、札幌市内の公共・文化施設、企業施設を一日だけ特別に夜間開放する「カルチャーナイト2025」の会場として、ウッドディホールを開放しました。当日は親子連れを中心に約170名が来庁し、鉛筆製造で発生す

るおがくずを使った粘土「もくねんさん」での粘土細工、「木のたまご」や「木のコースター」への色塗り、北海道の森林・林業を



宮の森小学校児童にバットの説明



カルチャーナイトでの木のたまごの色塗り体験

題材にした「北の森カルタ」などを体験していただきました。来場者からは、「たまごもカルタも楽しかったです！ また来年も来ます！」初めて(北海道森林管理局)に入ったけれど、どこを見ても木でいっぱい落ちて着きます。別の日にまた子どもを連れて遊びに来たいと思いました。」などの声が寄せられ、来場者の方々に木材とのふれあいを存分に楽しんでいただきました。

おわりに

建物のエントランスは、来場者に第一印象を与える建物の顔ともいえる重要な空間です。「ウッドディホール」での展示や活動を通じて、北海道森林管理局の業務内容を理解していただくとともに、木材と気軽に触れ合っていたく空間として提供することで、より一層地域の皆様に親しまれ、印象的な場所としてあり続けられるよう努めてまいります。

庁舎に利用した木材の炭素貯蔵量

